

データで読む 大学受験 お金事情

“お金のことは親に任せて、自分は合格に向けてひたすら勉強!”……なんて思っているアナタ。大学進学は、想像以上に出費がかさむものなのです。ここでは、大学受験(出願)から、入学後の生活費まで、実際にどれくらいのお金がかかるのかをデータをもとにシミュレーション。奨学金情報とあわせて、志望校選択や受験スケジュールの立案の参考にしてほしい。

※データはあくまでも平均的なサンプルです。入学金・学費納入方法は大学によって異なるので、大学案内や入試要項等で確認してください。

1 出願～受験編

私大3校出願で 受験料は10万円以上に。

大学受験にかかる費用のなかでも受験料は大きな割合を占めている。私立大学の推薦・一般入試の場合、20,000～35,000円、医学・薬学などの保健・医療系や芸術系の学部では40,000～60,000円が一般的。国公立大のセンター試験は3教科以上で18,000円(2教科以下は12,000円)に加え、2次試験の前期・後期に各17,000円の受験料が必要となる。成績開示希望者はそれぞれ800円プラスされる。たとえば、国公立1校(センター試験5教科、2次[前期・後期])と私立大2校を受験する場合、センター18,000円+2次17,000円×2+私立大35,000円×2=122,000円になる。

Data.1

国公立・私立大学の受験料(2017年度参考)

センター試験(3教科以上受験)	18,000円
センター試験(2教科以下受験)	12,000円
国公立大学2次試験	17,000円
私立大(医学部以外)	30,000～35,000円
私立大(医学部)	50,000円～
私立大(センター利用型)	5,000～30,000円
私立大(センター利用型 医学部)	30,000～45,000円

ワンポイント アドバイス

併願計画に有利な 受験料優遇制度を活用しよう。

合格の可能性をアップする有効な方法の一つに、受験チャンスを多く持つことがあげられるが、併願すればそれだけ多くの出願料が必要になってくる。そこで、ぜひ活用したいのが受験料の優遇制度だ。大学によっては受験料に10,000～15,000円程度追加するだけで複数の学部・学科を併願できるケースや、一般入試とセンター試験利用入試を併願すると受験料が割引になる制度もある。また、最近ではインターネットでの出願を導入する大学も増えている。インターネット出願をすると受験料が割引になる場合も多いので、各自でよく調べてみよう。

受験から入学まで、 いったいどれくらい 費用がかかるの？

“受験のための移動”を快適、かつリーズナブルに!

全国大学生協連の調べによると、出願をするためにかかった費用(受験料、願書取り寄せ、証明書、郵送料など)の全国平均は、自宅生156,100円、下宿生130,100円で、下宿生の方が26,000円安かった。しかし、受験のための費用となると自宅生16,800円に対し下宿生は78,600円。下宿生の場合は受験会場までの交通費や宿泊費、滞在費など、自宅生より62,000円近い金額が必要になってくる(Data.2)。例えば東京の大学を受験すると、広島市内からの交通費だけでも30,000円(学割使用)以上かかる。交通費や宿泊費は受験する大学の所在地や受験校数によって異なるが、出費を最小限に抑えるためにも、学割や往復割引、期間・地域限定の割引のほか、新幹線回数券などを積極的に利用しよう。

Data.2

大学受験にかかった費用(住まい別全国平均)

	自宅生	下宿生
出願をするためにかかった費用	156,100円	130,100円
受験のための費用	16,800円	78,600円
合計	172,900円	208,700円

全国大学生協連発行「2016年度保護者に関する新入生調査」

ワンポイント アドバイス

学外試験を利用して ベストコンディションで受験に臨む!

本学会場のほかに「学外試験会場」として全国各地に入試会場を設けている大学も多い。地元受験のメリットは、受験のための移動に費やす経済的な負担だけでなく、受験生の精神的・時間的負担も軽減できる点にある。大学によっては本学試験と別日程で学外試験を実施するケースもあり、本学試験と組み合わせて出願すれば受験機会も拡大。入試要項をチェックして自分にあった受験スケジュールを立て、心身ともにベストコンディションで試験本番に臨んでほしい。

2 入学手続～新生活編

合格後、 入学手続時にお金は必要。

大学合格後、入学手続時に必要となるのが初年度納付金(入学金・授業料・施設費等)だ。納入方法や金額等は大学によって異なるが、「一括納入」のほかに「2段階方式」(入学手続時と後期に分けて納入)、「返還方式」(入学を辞退した場合に学費を返還)などが一般的。入学前にあらかじめ募集要項等で必要な金額を算出し、準備しておきたいものだ。

Data.3

初年度納入金の平均額(自宅生)

	入学金	授業料	施設拡充費	寄付金・学費
国公立大(全平均)	282,100円	316,800円	61,900円	44,700円
私立大(全平均)	227,600円	520,600円	183,000円	76,500円
私立大(文)	218,800円	476,500円	158,300円	67,400円
私立大(医・歯・薬)	291,200円	850,500円	362,300円	298,100円

全国大学生協連発行「2016年度保護者に関する新入生調査」

ワンポイント アドバイス

独立法人化により 国公立大学の授業料が変化。

国立大は2004年度の法人化により、それまで全国一律だった授業料を、各大学が文部科学省が定める基準範囲内で設定できるようになった。また公立大は、その大学を設置・運営する自治体によってそれぞれ異なるが、大学がある地域出身の学生を優遇する「地元出身者優遇制度」を利用すると、県外(市外)出身者より学費が安くなる。

受験費用シミュレーション

【広島在住、国公立大2校、私大3校に出願したAくんの場合】

首都圏の大学1校、中部地区の大学1校(センター利用)、県内の大学1校(国公立大後期は前期日程合格のため未受験)を受験。

■受験料

センター試験(3教科以上)	18,000円
国公立大2次試験	17,000円×2校=34,000円
私立大受験(一般入試)	35,000円×2校=70,000円
私立大受験(センター利用)	15,000円×1校=15,000円

■交通費(新幹線のぞみ 指定席利用 学生往復運賃適用)

広島→東京(1往復)	33,480円
広島→名古屋(1往復)	25,080円

■宿泊費(受験生バック利用。ビジネスホテル泊・朝夕2食付き)

東京1泊	13,000円×1回=13,000円
名古屋1泊	10,000円×1回=10,000円

■その他

文具、昼食代、大学までの交通費など	10,000円
合計	228,560円

CHECK!

1泊2食で1万円台後半から2万円程度 受験シーズン限定の「受験生バック」も要チェック!

受験に便利な宿泊施設をセレクトした旅行会社の受験生向け宿泊バックも要チェック! リーズナブルな価格設定に加え、試験会場までの送迎や受験当日の弁当の手配といった受験生向けのサービスも用意されている。

新生活準備は、 とかお金がかかるもの……。

念願の志望校合格を果たし、いよいよ大学生活がスタート。一人暮らしを始める自宅外生にとって気になるのは、家賃や敷金礼金、引越代や身の回りの生活用品費などの新生活資金だろう。(Data.4)は、入学手続後に必要となる主な諸費用の全国平均額。個人差や地域差はあるものの、自宅生と下宿生では約2.5倍の支出の差が生じている。このほかにも、入学式の関連費用(スーツなど)や教科書・教材費などのお金が必要となる。志望校決定の前に、家族の方々や経済状況を相談しながら予算案をまとめておこう。

Data.4

新入生(私大)が合格から入学までにかかった費用(全国平均)

	自宅生	下宿生
入学手続	3,600円	33,800円
入学式出席のための費用	4,300円	40,000円
教科書・教材のための費用	130,500円	180,500円
住まい探しの費用	—	216,500円
家電等の生活用品購入費用	85,300円	306,300円
引越・送料など	—	31,600円
4月分の生活費	41,000円	70,800円
予備の貯金	91,100円	131,000円
保険料	32,200円	39,200円
生協出資金	17,400円	17,400円

全国大学生協連発行「2016年度保護者に関する新入生調査」

ワンポイント アドバイス

選択肢はさまざま。予算や ライフスタイルに合った部屋選びを!

一人暮らしを始める際に、まず、なくてはならないのが部屋探し。大学によっては学生課などの窓口で良質な物件を斡旋している不動産業者を紹介してもらえる場合があるので相談してみるのも一つの方法だ。大学の周辺には学生のニーズに対応したさまざまなタイプのアパートやマンションがあり、近年は敷金礼金ゼロの物件も増えている。また、大学生協が中心となり、卒業生が残した生活用品の交換会やリサイクルを行う大学もあるため、掲示板などの情報をこまめにチェックしよう。机やベッド、エアコン、クローゼットを完備した学生寮という「破格物件」も見逃せない。

CHECK!

オートロック、シャワー付きの個室や インターネット端末まで……今どきの学生寮事情

とかく堅苦しいと思われがちな寮生活……そんなイメージを払拭する新しいタイプの学生寮や大学と提携した学生会館が増加中。防犯カメラを備えたオートロック式の玄関、ラウンジのあるエントランス、可動式のクローゼットや冷蔵庫、ユニットバスを完備したワンルーム型の完全個室、高速インターネット端末やFAX付き電話、寮生が自由に使えるトレーニングジムやサウナまで……入寮費や管理費は施設設備の充実度によってさまざまだが、予算やライフスタイルに応じたいいろいろなタイプの物件を選ぶことも可能。さらに近年は、朝・夕の食事に、健康や栄養バランスにも配慮した「食事付きの学生会館」の人氣も高まっている。

3 キャンパスライフ編

やっぱり気になる!? 下宿生の仕送り額。

では、実際に大学生生活にかかる1か月の費用についてみよう(Data.5)。まずは下宿生にとって重要な収入源となる「仕送り」。つまり実家からの定期送金の内容だ。全国的な平均額は1か月あたり71,440円で、前年より約1,000円増加。奨学金は約1,000円減り収入合計では変化はなかった。支出では、食費、住居費などが前年を上回る一方、書籍費、勉強費などが減少。支出合計では、前年より約1,200円増加した。また、下宿生の生活費のうち12,500円を貯蓄・繰越にあてていることにも注目したい。メールを活用して電話代を減らしたり、大学のパソコンや図書館を利用して書籍代を節約するなど、自分なりの節約術で、就職活動や卒業後の進路を視野に入れて堅実に貯蓄する学生も増えている。

Data.5 1か月の生活費

	自宅生	下宿生
小遣い・仕送り	15,040円	71,440円
奨学金	11,470円	23,270円
アルバイト	33,960円	25,320円
その他	1,470円	2,320円
収入合計	61,940円	122,350円
食費	12,250円	24,760円
住居費	280円	53,100円
交通費	9,020円	3,320円
教養娯楽費	8,490円	9,240円
書籍費	1,680円	1,720円
勉強費	1,120円	1,490円
日常費	4,800円	5,540円
電話代	2,670円	4,100円
その他	2,410円	2,430円
貯金・繰越	17,190円	12,500円
支出合計	59,910円	118,200円

全国大学生協連発行「CAMPUS LIFE DATA 2015」

ワンポイント アドバイス 工夫いろいろ。 学生のこだわり節約術。

節約できるところは賢く節約して、趣味や資格などやりたいことに支出を集中させる今どきの大学生。下宿生に、その節約術を聞くと…食事付きのアルバイトで夕食代を浮かす、できるだけ自炊を心がけ食材はスーパーの特売日にまとめ買い、使わない家電品はコンセントを抜いておく、生活用品は必ず使い切ってから買う、教科書は先輩から調達する、古着屋やリサイクルショップを活用する、500円玉貯金を卒業旅行資金にあてる……など主婦顔負けのアイデアも。しっかりと経済観念をもって大学生生活を過ごしている学生が増えているようだ。

4 中国・四国地区 学生編

暮らしぶりをチェック!

下宿生の生活費の中でも大きなウエートを占める住居費と生活費の比率を地域別にみると、中国・四国の学生は東京や大阪・京都・神戸といった都市部に比べて家賃の負担が軽く、仕送りの平均額にも経済的な暮らしやすさが見てとれる。さらに、中国・四国の学生の貯蓄・繰越額は、下宿生はもちろん、自宅生も全国平均より多く、上手に節約しながら、しっかり貯蓄に回しているようだ。

Data.6 1か月の住居費と仕送り額 (下宿生/地域別)

	住居費	仕送り額
全 国	53,100円	71,440円
北 海 道	52,120円	69,380円
1 都 3 県	60,710円	84,320円
東 海	51,060円	68,090円
京 都	54,330円	74,780円
大 阪	51,840円	67,880円
中国・四国	44,940円	58,010円
九 州	48,650円	57,900円

全国大学生協連発行「CAMPUS LIFE DATA 2015」
※1都3県・東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県

ワンポイント アドバイス 部屋選びは焦らずに。 納得のいく物件を探そう。

家賃は、部屋数や面積ばかりでなく、構造の違い、築年数、角部屋や日当たりなど、さまざまな要素によって金額差が生じる。ちなみに中国・四国の住居費は、全国平均を約8,200円下回っており、経済的にも暮らしやすい環境といえる。部屋選びで重要なのは価格だけでなく、何を基準に選ぶかということ。自分が何にこだわりたいのかを明確にし、物件は自分の目で確かめて、焦らずじっくりと納得してから契約に進もう。

アルバイト就労率も増加。

この半年間にアルバイトをした人は大学生全体では77.7%で、下宿生(73.9%)よりも自宅生(82.3%)の割合の方が高くなっている。1か月のアルバイト平均収入は約29,000円で、下宿生の用途としては「生活費の維持」「生活費のゆとり」「旅行・レジャー」の順に多かった。

ワンポイント アドバイス 自己成長につながるアルバイト。ただし、学業に差し支えない範囲内で。

貴重な社会経験となるアルバイトは、いわば学生生活の一部。社会人としてのルールを学ぶ、人間関係を広げる機会として、学業に差し支えない範囲でアルバイトを推奨する大学もあり、学生課などの窓口で安心して働けるアルバイト先を紹介してもらえるケースもある。余暇を上手に活用し、自分自身の成長につなげよう。

5 奨学金編

大学独自の制度を賢く利用しよう。

これまで見てきたように、大学進学とひと口に言っても自宅生・自宅外生を問わず相当な額のお金が必要になってくる。家庭の経済的負担を軽減するためにも、奨学金や特待生制度などを上手に利用したいものだ。奨学金は、経済的な理由で学業を続けることが困難な学生に対し、学ぶ機会を経済的に支援する制度。次ページ以降で紹介する大学独自の奨学金・特待生制度をはじめ、日本学生支援機構や地方自治体・民間団体など、多くの機関や団体で奨学金制度を設けている。奨学金は大別して、返還義務のない「給付」と、卒業後所定の期間内に返還義務がある「貸与」の2種類があり、制度ごとに定められた選考基準や金額・返済方法・利子の有無などがあるため、希望者はあらかじめ資料を取り寄せてチェックしておこう。

Data.7 1か月の学生の収入に占める奨学金の割合

	2012年	2013年	2014年	2015年
自宅生				
収入合計	58,120円	60,770円	60,900円	61,940円
奨学金	11,790円	12,370円	11,740円	11,470円
割 合	20.3%	20.4%	19.2%	18.5%
下宿生				
収入合計	120,140円	121,090円	121,960円	122,350円
奨学金	25,380円	24,050円	24,210円	23,270円
割 合	21.1%	19.8%	19.8%	19.0%

全国大学生協連発行「CAMPUS LIFE DATA 2015」

ワンポイント アドバイス 自分の適性にあった制度を見つけて チャレンジしよう!

長引く不況を背景に、独自の奨学金や特待生制度を充実させる大学が増え、こうした制度を利用する学生も年々増加している。大学によっては、学業成績や入試の成績だけでなく、スポーツやボランティア活動などでの活躍や実績によって給付を認める奨学金制度もある。ぜひチャレンジしてみよう。

CHECK! 成績優秀者の授業料免除、国立大でもスタート 今後多くの大学で導入される動きあり

国立大学が、成績優秀な学生の授業料などを減免する「特待生制度」を取り入れる動きが増えている。もともと国立大学における授業料免除は経済的理由だけに限られていたが、2004年度の独立行政法人化により、各大学が減免規定を設けることができるようになった。中国・四国地区の国立大学においても、すでに特待生制度を導入しているところもあり、その動きは今後も増加傾向にあると言える。

●大学独自の奨学金制度

大学が独自に設ける奨学金制度には、いくつかのパターンがある。一般的なものは、入学後の成績が優秀な学生に対して奨学金を支給する制度で、前年度の学業成績や履修単位数などの選抜基準があり、主に2~4年生を対象とする場合が多い。大学によって選考基準はさまざまだが、資格取得や海外留学を奨励する目的で設けられている制度、両親の不幸や災害などで修学が困難になった学生を支援する緊急時の奨学金などがあり、地震や台風で被災者となった受験生や在学学生に対し、受験料や納入金を減免または免除する特別措置がとられる大学も増えている。

●特待生制度

スカラシップ入試、奨学金入試と呼ぶ場合もあり、入学試験時に優秀な成績をおさめた学生に対して奨学金を支給する制度だ。一般入試と別日程で行われる場合と、一般入試の受験生から成績優秀者を選抜する場合があり、推薦入試・AO入試として実施する大学もある。支給額等は大学によって異なるが、入学金あるいは授業料の全額、または一部を免除するケースが一般的だ。

●日本学生支援機構奨学金

国の特殊法人改革により、2004年から日本育英会に代わって日本学生支援機構が運営する奨学金制度。奨学金は月単位で支給され、卒業後に定められた期間で返済する義務があり、返還無利子の「第一種奨学金」と有利子(上限3%)の「第二種奨学金」の2種類がある。

第一種奨学金(無利子)	自宅通学者(私立大学)	54,000円
	自宅外通学者(私立大学)	64,000円
第二種奨学金(有利子)	3万・5万・8万・10万・12万円から希望選択	

このほかにも……都道府県や市町村などの地方自治体や民間育英団体による奨学金制度、新聞奨学会が運営する新聞奨学金制度といったさまざまな奨学金制度がある。募集人数や支給金額などは各団体によって異なり、他の奨学金との併用が認められないケースもあるため、希望者は事前に確認しておこう。